

戦後80年 竹下景子がピアノの音とともに語り継ぐ “ひめゆり”を忘れない

この朗読の舞台である沖縄では、第2次世界戦争末期1945年3月～6月に、日本で唯一地上戦が行われ、住民の4分の1にあたる数十万人が犠牲となりました。

那覇市安里にあった沖縄師範学校女子部・沖縄県立第一高等学校からは、生徒222名、教師18名が沖縄南部の南風原（はえばる）沖縄陸軍病院に動員され、そのうち136名が命を落としました。

両校から動員された生徒・教師たちを戦後「ひめゆり学徒隊」と呼ぶようになります。

この物語は、生き残ったひめゆり学徒たちの手記を基にしたオリジナル作品です。



～竹下景子プロフィール～

1953年9月15日生まれ。愛知県名古屋市出身。東京女子大学文理学部社会学科卒業。
NHK『中学生群像』出演を経て、1973年NHK 銀河テレビ小説『波の塔』で本格デビュー。
映画『男はつらいよ』のマドンナ役を3度務め、『学校』では第17回日本アカデミー賞優秀助演女優賞を受賞。2007年、舞台『朝焼けのマンハッタン』『海と日傘』で第42回紀伊國屋演劇賞個人賞を受賞。テレビ・映画・舞台への出演の他、2005年日本国際博覧会「愛・地球博」日本館総館長をはじめ「世界の子どもにワクチンを日本委員会」ワクチン大使、国連WFP協会親善大使など幅広く活動している。

※一行人数12名～、1ステージ100分～120分（休憩15分含）